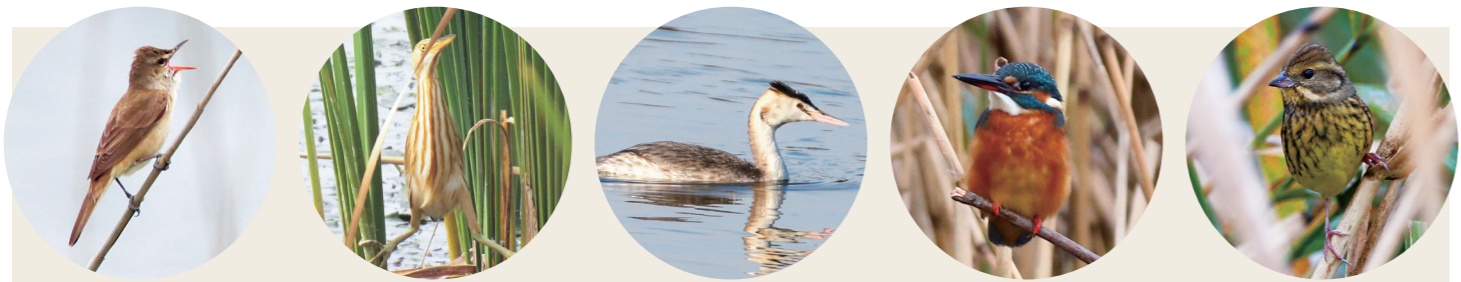
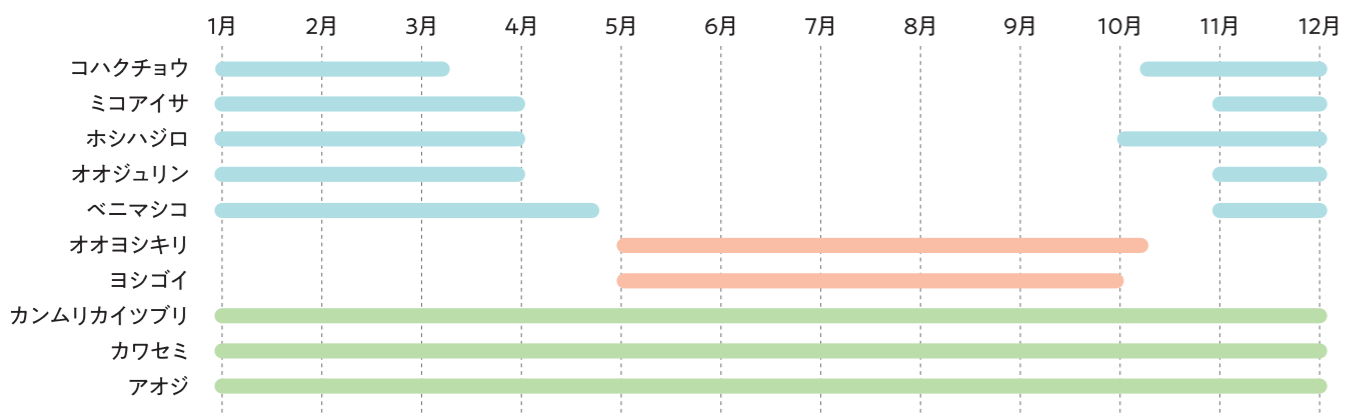


佐潟で見られる / 野鳥カレンダー

冬鳥 ハクチョウ類・カモ類

冬鳥 オオジュリン

冬鳥 ベニマシコ



夏鳥 オオヨシキリ 夏鳥 ヨシゴイ 留鳥 カムリカイツブリ 留鳥 カワセミ 留鳥 アオジ

- !** 野鳥の観察ルール
- ・野鳥をおどかさなように静かに観察する
 - ・野鳥にエサを与えない
 - ・ごみは持ち帰る
 - ・動植物を採取しない

佐潟水鳥・湿地センター



佐潟水鳥・湿地センター

ラムサール条約の理念に基づき、鳥類などの観察や湿地保全啓発の拠点として、1998(平成10)年5月に開設された施設です。館内ではスコープで野鳥を観察できます。また、野外観察用に双眼鏡を無料で貸し出しています。

〒950-2261 新潟市西区赤塚 5404-1
 TEL: 025-264-3050 FAX: 025-264-3051
 E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

- 開館時間 9:00~16:30 ※11~2月の毎土日は早朝 7:00 開館
- 休館日 毎週月曜日(祝日、振替休日の場合は翌日)・12月29日~1月3日
- 交通のご案内 車: 北陸自動車道新潟西 IC より約 20 分、巻潟東 IC より約 20 分



最新情報は
こちら

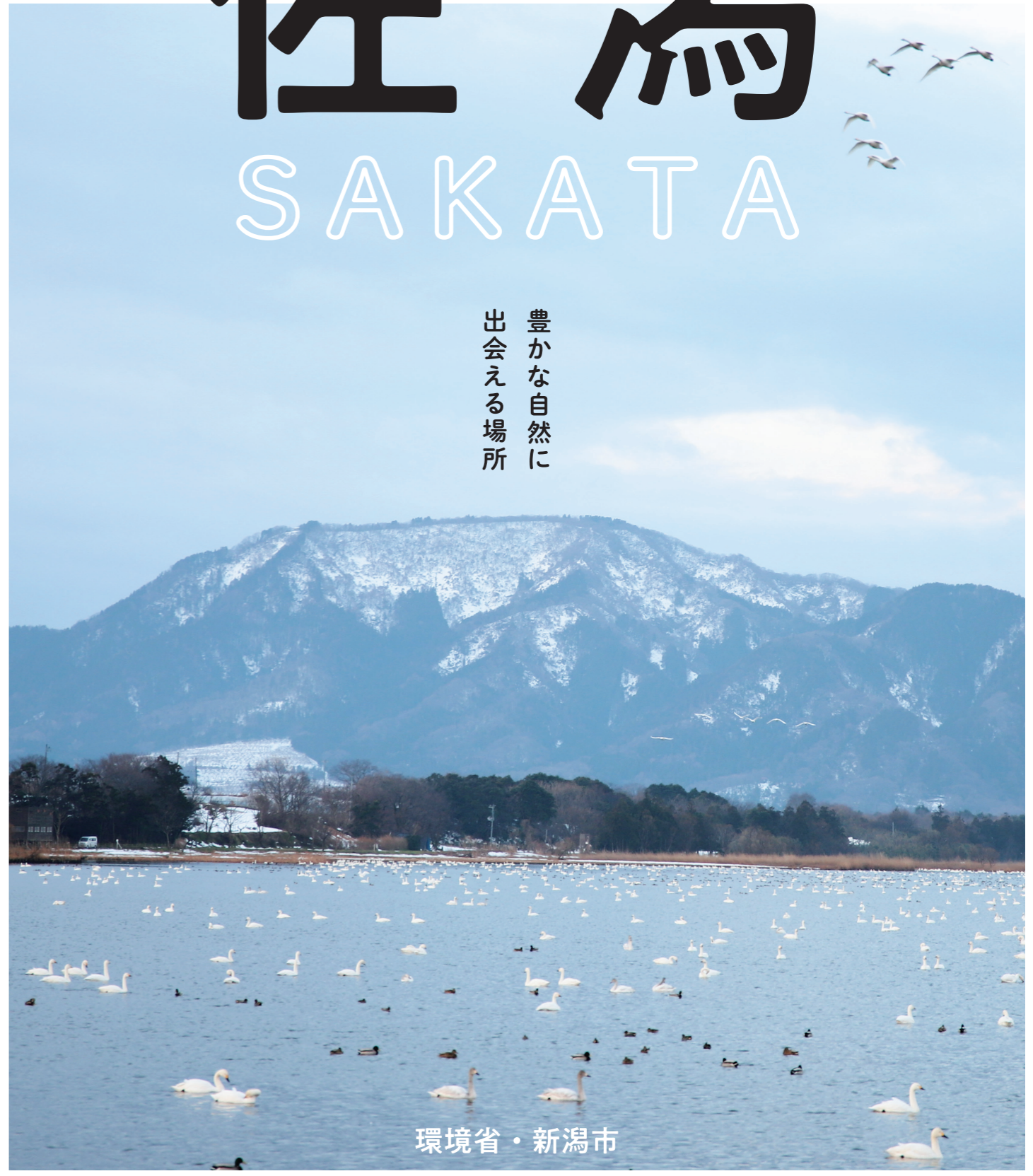
ラムサール条約湿地



佐潟

SAKATA

豊かな自然に
出会える場所

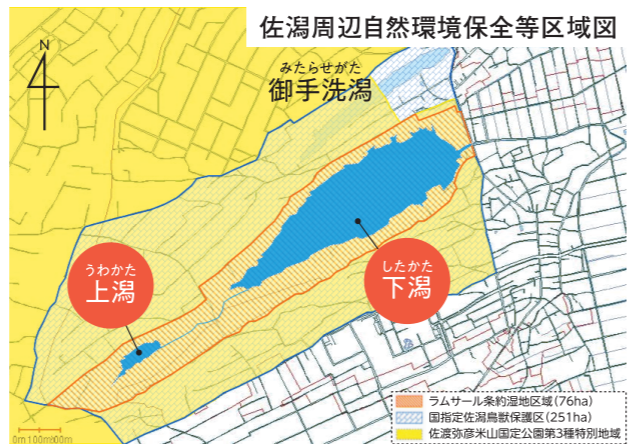


環境省・新潟市



佐潟の概要

佐潟は、新潟砂丘の砂丘列間の低地に位置し、上流側にある小さな上潟と下流側にある大きな下潟の大小2つの潟からなる淡水湖です。コハクチョウをはじめとする渡り鳥の集団渡来地として、1981(昭和56)年に国指定佐潟鳥獣保護区に指定され、1996(平成8)年にラムサール条約湿地に登録されました。



佐潟の特徴

- 水深は平均1m程度と浅く、湖底は船底型をしています。
- 湿地特有の自然生態系を残し、貴重な野生生物の生息・生育地になっています。
- 佐潟の水は、周辺砂丘地からの湧水や雨水によって供給されています。

鳥類

渡り鳥の越冬地として知られ、代表的な種に、コハクチョウ、マガモ、コガモが挙げられます。これらの渡り鳥は10月～3月に佐潟で休憩しながら、周辺の水田で採餌します。このほかにも、湖沼や草地の留鳥やハヤブサ、チュウヒなどの猛禽類、渡り途中の山林の野鳥などを含め、200種以上の鳥類を記録しています。




植物

これまでに650種以上の植物を記録しています。水際にはヨシやガマ、水域ではハスやヒシの群落が多く生育しているほか、オニバスやミズアオイなど絶滅のおそれのある植物も見ることができます。





昆虫類

水辺環境をはじめさまざまな環境を通して、これまでに約1,000種の昆虫類を記録しています。トンボ類は市内有数の生息地であり、草地ではバッタの仲間などが多く見られます。





佐潟の歴史

佐潟周辺では、縄文、弥生、平安時代の遺跡が見つかり、古くから生活の場であったと考えられています。江戸時代には佐潟での鳥獵に鳥役(とりやく)という上納金を命じた記録があり、これがハクチョウを保護する役割を果たしました。「改正越後国全図」(1802年)の付録では、「佐潟のガン・カモ類が越後国で一番多い」と評価されていることから、当時から鳥類が多く飛来していたと思われます。1960年代までは潟端での稲作や漁業、レンコン採りなどが行われてい



潟の田んぼ

潟普請

ましたが、高度経済成長期以降は生活様式が変わり、潟を取り巻く環境が大きく変化しました。1996(平成8)年にラムサール条約湿地に登録後、環境の保全に取り組んでいます。

佐潟の取り組み

ラムサール条約湿地について

ラムサール条約は、国際的に重要な湿地とそこに生息・生育する動植物の保全を促進するための条約で、日本は1980(昭和55)年に加入しました。湿地の「保全・再生」、湿地の生態系を維持しつつ、そこから得られる恵みを持続的に活用する「賢明な利用(ワイズユース)」、これらを促進する「交流・学習(CEPA)」の3つの柱が条約の理念となっています。

保全・再生

地域住民、学識経験者、行政が佐潟の保全と利用のために、生物種・生息地の管理、賢明な利用(ワイズユース)などに取り組んでいます。佐潟周辺自然環境保全計画では、「人との関わりの中で多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てること」を目標に掲げています。



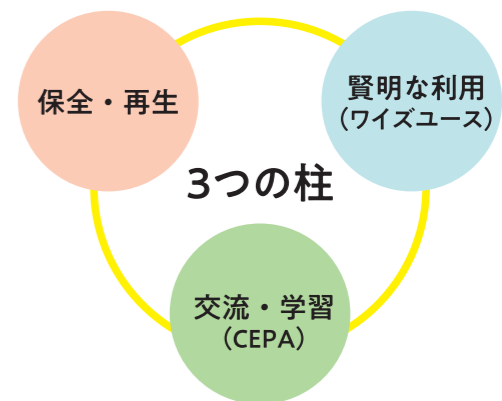
ヨシ刈り

泥上げ

交流・学習(CEPA)

佐潟ボランティア解説員による自然観察会(佐潟自然散歩、佐潟探鳥散歩)のほか、佐潟水鳥・湿地センターでは年間を通して自然と触れ合う催しを開催しています。また、小中学校の環境学習への対応や他のラムサール条約湿地との連携を行っています。

詳しい情報はこちら 環境省HP▶



賢明な利用(ワイズユース)

夏にはハスの花の収穫が、冬にはコイやフナの漁が行われています。また、潟舟の運行や、佐潟周辺の砂丘地、北国街道沿いの史跡を活用したまち歩きも行われています。



漁

ハスの花の収穫



こども向け環境教育

佐潟ボランティア解説員による佐潟探鳥散歩